

授業 科目名	授業科目名： 作業運動学実習 Exercises for Occupational Kinesiology	履修年次 必修： 作2年後期	単位数： 1単位 45時間 コード：RBB211	担当教員名：須藤崇行 (研究室：東校舎2) 有川真弓、松尾真輔、 成田悠哉 (全員作業療法士)
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅱ. コミュニケーション能力、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業運動学的知識を実験実習により深めることで、人間の動き・動作・運動を理解する。 1. 作業運動の計測手法を理解する。 2. 計測の結果から、各種作業・運動についてのメカニズムを理解する。				
〔授業の概要〕作業療法を学習する上で重要な人体の運動（動き）について、運動学的な知識を習得する。 本科目では、各種標本や学生相互の実験による実習形式により、測定結果からの考察を用いて、運動の応用的な内容を理解する。作業活動時に重要となる手指の把持・把握機能や上肢の動き、諸動作時の重心移動や動作の分析、表面筋電図などの基本的な測定や運動学的な理解、運動学習などを含む内容とする。				
キーワード：生体力学、姿勢、上肢・手の動作、筋活動、動作のスキル・テンポ、計測手法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/2	概説	実習計画、その他説明	須藤
第2回	10/9	実習Ⅰ	①重心（生体力学Ⅰ p51～57）	①松尾
第3回	10/16		②歩行（動作Ⅱ p121～132）	②有川、特別講義講師
第4回	10/23		③動作のスキル・テンポ（p151～158）	③須藤
第5回	10/30		④手の動作（動作Ⅲ p133～144）	④成田
第6回	11/6	実習Ⅱ	①上肢の動作（動作Ⅳ p145～149）	①松尾
第7回	11/13		②運動学的分析 （運動学実習第3版 p69～74）	②有川、特別講義講師
第8回	11/20		③筋活動（p79～93）	③須藤
第9回	11/27		④姿勢の違いによる肺気量、肺機能の反応	④成田
第10回	12/4	発表のオリエンテーション	発表や役割についての説明・準備	須藤
第11回	12/11		予備日、発表の準備など	各担当教員
第12回	12/18			
第13回	1/8			
第14回	1/22			
第15回	1/29	実習のまとめ	グループ発表	全員
履修条件	特になし			
予習・復習	実習前に作業運動学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容をその都度復習して実習に臨むこと。			
テキスト	配布する実習の手引き、PT・OT 学生のための運動学実習 三輪書店			
参考書・参考資料等	運動学実習 第3版			
学生に対する評価	レポート(80%)、課題（まとめと発表）(10%)、学習態度(10%)を総合的に評価する。			

授業 科目名	作業分析学 Occupation Analysis	履修年次: 選択: 作2年	単位数: 1単位 15時間 コード: RBB212	担当教員名: 有川 真弓 [作業療法士] (研究室: 仁戸名研究棟4)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム IV健康づくりの実践 V健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1) 作業療法で作業を治療手段として適応するとはどういうことかを理解する 2) 障害者体験を通して対象者の経験を疑似的に経験する. 活動参加と環境を考える 3) 自己の作業歴の分析を通して, 対象者のライフヒストリーへの視点の重要性を理解する				
〔授業の概要〕				
作業療法の治療・援助の手段である作業に関する基礎知識を身につける。作業活動に含まれる機能要素（運動・感覚・知覚・認知・心理社会等）や、作業活動が遂行される環境の影響、(社会—文化的、物理的等)、作業が持つ主観的側面（生活歴・作業歴・興味・価値等）を自己の経験と照らし合わせて分析、考察する。本科目は作業療法士の実務経験に基づき行われる。				
キーワード: 作業活動分析, 工程分析、作業適応				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	5/29(10:45-11:30)	オリエンテーション	目標の理解、分析の方法、課題の確認	
第2回	6/5	作業適応と段階付け	障害者への作業適応のための作業分析	
第3回	6/12	作業適応と段階付け	障害者への作業適応のための作業分析	
第4回	6/19	作業適応と段階付け	障害体験と作業分析	
第5回	6/26	作業適応と段階付け	障害体験と作業分析	
第6回	7/3	作業活動の分析	ライフヒストリー・作業歴の分析	
第7回	7/10	作業活動の分析	ライフヒストリー・作業歴の分析	
第8回	7/17	発表	実習・演習結果の発表	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習は基礎作業学・演習, 作業療法概論 (ICF) の見直し, 復習は演習内容のふり返りを行うこと		
テキスト		ひとと作業・作業活動, ICF 国際生活機能分類		
参考書・参考資料等		適宜紹介する		
学生に対する評価		レポート課題 (80%), 発表・学習態度 (20%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	人間工学 (Human factors and Ergonomics)	履修年次: 理、作2年	単位数: 1 単位 30 時間 コード: 理 B208、 作 B213	担当教員名: 科目責任者 下村 義弘[生理 人類士1級] (非常勤講師室)、高 原良[会社代表取締役]、竹内弥 彦[PT]、吉野智佳子[OT]
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 この授業は、他の実習で役立つ基礎的な概念を含む。課題のほとんどは授業内で完結するため、他の 実習と両立が可能である。講義では、人間を中心として機器や環境、運用方法を考えるという人間工 学の基礎を学ぶ。また福祉・リハビリテーションの現場、あるいは医療・福祉・労働などの応用テー マを取り上げ、最新知見とともに論理的な評価や設計の手法についても学ぶ。学生の学習目標は以下 の通り。①人間工学そのものを理解する、②人間工学とそれぞれの専門性との関係を自ら考える、③ 人間工学で使われる基礎的手法の一部を実践できるようにする。				
〔授業の概要〕 本授業では4つのテーマを根幹に据えて、演習を交えながら人間工学について講義する。1. 人間の 特性を知り、それに合わせた製品や環境、やり方の実践方法を学ぶ。2. 日常生活における身近な題材 をもとに、自分自身で人間の特性を実感しながら問題発見とその課題化の意識を学ぶ。3. バイオメカ ニクスの観点から人間を科学的に検討、探求することを学ぶ。4. 労働環境やそこにおける健康問題を 通して、実学としての人間工学を学ぶ。				
キーワード: ヒトの計測と評価、機器や環境の設計、				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	10/1	人間工学とデザイン	医療や生活における人間工学の意義	下村 義弘
第2回	10/8	日常生活と人間工学	身近な日常生活の中の工学	吉野智佳子
第3回	10/15	日常生活と人間工学	「座る」「立つ」を計る	吉野智佳子
第4回	10/22	日常生活と人間工学	取り巻く環境と人間の暮らしやすさ	吉野智佳子
第5回	10/29	人間工学とデザイン	人間工学による発想と評価	下村 義弘
第6回	11/5	人間工学とデザイン (演習)	感覚や運動機能に物を適合させる	下村 義弘
第7回	11/12	人間工学とデザイン (演習)	生体に適するようにリデザインする	下村 義弘
第8回	11/19	労働環境と人間工学	人に配慮した家具デザインの実践	高原 良
第9回	11/26	労働環境と人間工学	人に配慮した空間デザインの実践	高原 良
第10回	12/3	労働環境と人間工学	健康増進を促す職場環境づくり	高原 良
第11回	12/10	労働環境と人間工学	テレワークへの対応	高原 良
第12回	12/17	身体運動のバイオメカニクス	生体力学パラメーター	竹内 弥彦
第13回	1/7	身体運動のバイオメカニクス	関節モーメント (筋力) を計る	竹内 弥彦
第14回	1/14	身体運動のバイオメカニクス	加速度センサを用いた身体運動計測	竹内 弥彦
第15回	1/21	身体運動のバイオメカニクス	転倒回避動作のバイオメカニクス	竹内 弥彦
履修条件	大学の規定に従う。			
予習・復習	配布されたレジュメや資料、自身がとった授業のノートを復習に活用すること。			
テキスト	担当教員が作成したテキストを使用する。			
参考書・参考資料等	講義中に適宜紹介などする。			
学生に対する評価	各教員による課題レポート(90%)、日ごろの学習態度(10%)により総合的に評価。			

授業 科目名	人間発達学 Human development	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位 30時間 コード: RBB214	担当教員名: 有川 真弓 [作業療法士] (研究室: 仁戸名研究棟4)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ. 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人はこの世界に生まれることによって、世界の環境の一員となり、環境との相互作用を始める。生活の中で体験する出来事を通して、個々人の様々な力を獲得し発達していく。人が発達していく過程を理解することで、発達過程の中で障害そのものがどのように影響するのかという観点から障害を理解することを目的とする。				
〔授業の概要〕 本科目では、胎児から発達学的な成長・生育の過程とその月齢指標や精神認知機能の発達と包括して、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期などについて、各段階の発達過程について理論的背景から理解する。本科目は作業療法士の実務経験に基づいた講義形式で行われる。				
キーワード: 人間発達, 発達過程, 社会生活活動の発達, ライフステージと発達課題				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/10	人間発達学概論	オリエンテーション、発達の概念、原則、発達課題	
第2回	4/17	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達1	
第3回	4/24	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達2	
第4回	5/1	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達3	
第5回	5/8	発達過程の各機能の発達	姿勢と運動の発達4	
第6回	5/15	発達過程の各機能の発達	視機能・上肢機能の発達1	
第7回	5/22	発達過程の各機能の発達	視機能・上肢機能の発達2	
第8回	5/29	発達過程の各機能の発達	視機能・上肢機能の発達3	
第9回	6/5	発達過程の各機能の発達	認知機能の発達1	
第10回	6/12	社会生活活動の発達	認知機能の発達2	
第11回	6/19	社会生活活動の発達	コミュニケーションの発達	
第12回	6/26	社会生活活動の発達	コミュニケーションの発達	
第13回	7/3	社会生活活動の発達	ADLの発達	
第14回	7/10	社会生活活動の発達	ADLの発達	
第15回	7/17	社会生活活動の発達	摂食嚥下体験	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジメの見直しを行うこと。		
テキスト		人間発達学(標準理学療法学・作業療法学) 医学書院		
参考書・参考資料等		適宜紹介する		
学生に対する評価		学期末試験(100%)により評価する。		

授業 科目名	内 科 学 総 論 (Internal Medicine)	履修年次:理・作 2 年	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)
			コード:RBB216	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 内科疾患診療の基本について、臨床医学の最近の動向に関する公開資料などを活用しながら、病態に基づいた診療技術の観点から教授する。まず、臨床医学における内科疾患の位置づけと意義を総合的に把握することから始め、身体の診察技術や検査法ならびに多様な治療法の基本を学修する。目標としては ① 内科的診断法、治療法の概要について説明できる。 ② 主要な内科的疾患の治療の中で、理学・作業療法の果たす役割について説明できる。				
〔授業の概要〕 主要な内科疾患の診断法および治療法について講義を行う。理解を助けるために適宜動画を組み入れて具体的な説明をおこなう。授業内容の概要はハンドアウトとして各講義の最初に提供し、次回講義前には理解確認のための小テストを課し、講義内容を確認するとともに発展的学修を促す。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づき講義する。				
キーワード:内科診断学、臨床検査、薬物治療				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/14	診療の基本	内科診療の基本	
第2回	4/21	内科診断学総論	医療面接、身体診察	
第3回	4/28	全身的な徴候	内科診療でよくみられる全身的徴候	
第4回	5/12	緊急性の高い徴候	急性腹症、意識障害、呼吸困難、急性冠症候群、消化管出血	
第5回	5/19	身体診察の基礎	理学的診察の基礎	
第6回	5/26	身体診察	胸部・腹部所見	
第7回	6/2	検体検査	検査値の解釈、主要な血液検査項目	
第8回	6/9	生理検査	心電図、呼吸機能	
第9回	6/16	画像検査	胸腹部CT	
第10回	6/23	内科治療総論	内科疾患の治療に関する基本的な考え方	
第11回	6/30	薬物療法1	薬理学の基本	
第12回	7/7	薬物療法2	理学・作業療法施行中に注意すべき薬物	
第13回	7/14	人工臓器	人工透析・レスピレーター、ペースメーカー	
第14回	7/23	老年科学入門	サルコペニア、フレイル対策など	
第15回	7/28	まとめ	全体のまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習:教科書の該当部分を熟読 復習:配布プリントと教科書の復習		
テキスト		《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》内科学(第5版) 医学書院		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		定期試験 90%, 学習態度 10%		

授業 科目名	内科学各論 (Internal Medicine)	履修年次：必修：理・作2年	単位数:1 単位 30 時間	担当教員名： 科目責任者 山本 達也 (脳神経内科医師) (研究室：仁戸名 9)、太和田 暁之 (内科医師)
		実務経験のある教員による授業科目	コード:RBBB217	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 内科学総論で学んだ内科診療の基本的知識を踏まえ、主要な内科疾患の病態、診断、治療の概要について学び、治療体系の中で、理学・作業療法の果たす役割について学修する。到達目標としては ・主要な内科疾患の病態・診断について説明できる。 ・主要な内科的疾患の治療の中で、理学・作業療法の果たす役割について説明できる。				
〔授業の概要〕 主要な内科疾患の病態および講義を行う。授業内容の概要はハンドアウトとして各講義の最初に提供する。次回授業時には理解確認のための小テストを行い、講義内容を確認するとともに発展的学修を促す。内科医としての実務経験に基づいて講義を行う。				
キーワード：循環器、呼吸器、血液、消化器、腎、代謝内分泌、感染症、膠原病				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/3	循環器疾患	高血圧、心不全	山本 達也
第2回	10/3	循環器疾患	不整脈、虚血性心疾患	山本 達也
第3回	10/10	呼吸器疾患	誤嚥性肺炎、閉塞性疾患	山本 達也
第4回	10/10	呼吸器疾患	肺癌、肺血栓塞栓症	山本 達也
第5回	10/17	血液疾患	赤血球系の疾患、出血性疾患	山本 達也
第6回	10/17	血液疾患	腫瘍性血液疾患（白血病、悪性リンパ腫）	山本 達也
第7回	10/24	消化器疾患	消化管疾患	太和田 暁之
第8回	10/24	消化器疾患	肝胆膵疾患	太和田 暁之
第9回	10/31	腎臓疾患	糸球体疾患・尿細管・間質性病変	山本 達也
第10回	10/31	感染症	感染症の診断、治療	山本 達也
第11回	11/7	代謝性疾患	糖尿病、脂質異常症	山本 達也
第12回	11/7	内分泌疾患	下垂体、副腎、甲状腺	山本 達也
第13回	11/14	自己免疫疾患	免疫系、アレルギー疾患	山本 達也
第14回	11/14	自己免疫疾患	膠原病	山本 達也
第15回	11/21	まとめ	授業全体のまとめ	山本 達也
履修条件		内科学総論を履修していることが望ましい。		
予習・復習		予習：教科書の該当部分を熟読 復習：配布資料と教科書内容の対応確認		
テキスト		《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》内科学(第5版) 医学書院		
参考書・参考資料等		特になし。		
学生に対する評価		定期試験 90%、学習態度 10%		

授業 科目名	神経内科学総論 Neurology	履修年次：必修：理・作2年	単位数:1 単位 30 時間 コード:RBBB218	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室：仁戸名9)
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法・作業療法を実施する上で関連の深い脳神経内科学の基本的な考え方、問診・診察法の習得を目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 ①脳神経内科総論 ②問診 ③意識障害・高次脳機能障害 ④脳神経の障害 ⑤運動障害 ⑥感覚障害 ⑦歩行障害・不随意運動 ⑧自律神経障害 ⑨検査				
〔授業の概要〕 神経系の障害で起こりうる症候を部位別に整理し、その診察法、検査法を習得し、病態について理解する。また、神経疾患の総合的な診断学、治療学を習得する。脳神経内科専門医の実務経験に基づき講義する。				
キーワード：脳神経内科学、症候、病態、診察、検査				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/14	脳神経内科とは	脳神経内科学の紹介	
第2回	4/21	神経疾患総論	脳神経内科で扱う神経疾患の紹介	
第3回	4/28	神経疾患の問診	問診から臨床診断へのプロセス	
第4回	5/12	意識障害	意識障害とその原因	
第5回	5/19	高次脳機能障害1	記憶・認知の障害	
第6回	5/26	高次脳機能障害2	言語・行為の障害	
第7回	6/2	脳神経	脳神経とその障害	
第8回	6/9	運動障害1	筋緊張・筋力・筋萎縮	
第9回	6/16	運動障害2	運動失調・錐体外路症状	
第10回	6/23	感覚障害・反射	表在感覚・深部/固有感覚・皮質感覚、腱反射・病的反射	
第11回	6/30	歩行障害	歩行障害の分類と原因疾患	
第12回	7/7	不随意運動	不随意運動の分類と原因疾患	
第13回	7/14	自律神経障害1、検査	心血管系・発汗障害、髄液検査、生理学的検査	
第14回	7/23	自律神経障害2	排泄障害	
第15回	7/28	まとめ	全体のまとめ	
履修条件		人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）を履修していることが望ましい。		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。		
テキスト		「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書		
参考書・参考資料等		特になし。		
学生に対する評価		定期試験（90%）、学習態度（10%）		

授業 科目名	神経内科学各論 Neurology	履修年次:必修: 理・作2年次	単位数:1 単位 30 時間 コード:RBBB219	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)
		実務経験のある教員による授業科目		
	〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法・作業療法を実施する上で関連の深い、脳神経内科学領域における各疾患についての知識を習得できることを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 ①機能的疾患、②脳血管障害、③認知機能障害、④神経変性疾患、⑤自己免疫性疾患、⑥自己免疫性疾患、⑦神経感染症、⑧脊髄疾患、⑨末梢神経疾患、⑩筋疾患				
〔授業の概要〕 脳神経内科領域の各疾患について、臨床症状、検査法、治療法、病因、予防法、経過と予後などを学習する。脳神経内科領域の診療における最新の知見も紹介する。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義する。				
キーワード:脳神経内科疾患、検査、診断、原因、治療				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第1回	10/6	機能的疾患	頭痛・てんかん	
第2回	10/20	脳血管障害(1)	脳梗塞	
第3回	10/27	脳血管障害(2)	脳出血、クモ膜下出血	
第4回	11/10	認知機能障害(1)	アルツハイマー型認知症	
第5回	11/17	認知機能障害(2)	レビー小体型認知症	
第6回	12/1	神経変性疾患(1)	パーキンソン病	
第7回	12/8	神経変性疾患(2)	パーキンソン症候群	
第8回	12/15	神経変性疾患(3)	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症含む)	
第9回	12/22	神経変性疾患(4)	運動ニューロン疾患	
第10回	1/5	自己免疫性疾患(1)	多発性硬化症、視神経脊髄炎	
第11回	1/19	自己免疫性疾患(2)	重症筋無力症、炎症性筋疾患	
第12回	1/26	神経感染症	髄膜炎、脳炎、プリオン病	
第13回	1/28	脊髄疾患	脊髄炎、脊髄血管障害、脊髄空洞症	
第14回	2/2	末梢神経疾患	ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパチーなど	
第15回	2/3	まとめ	授業全体のまとめ	
履修条件		脳神経内科学総論を履修していることが望ましい。		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。		
テキスト		「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験(90%)、学習態度(10%)		

授業 科目名	整形外科学総論 (General orthopedics)	履修年次: 理 2・作 2	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 金子 徹 [リハビリテーション科医 師] (研究室: 仁戸名 2)
			コード: RBB305, RBB220	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム, Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 運動器の外科である整形外科学の知識を、理学療法・作業療法と関連づけて修得することを目標とする。解剖学・生理学・病理学・運動学の知識を基礎として、整形外科学的診断・治療・合併症を理解し、専門用語を用いて、説明できることを目標とする。				
〔授業の概要〕 運動器(骨・関節)の構造と機能を再確認しつつ、運動器疾患の病態を理解する。整形外科的検査法、症候学、診断学(画像診断学を含む)、治療法(保存的治療・観血的治療)、合併症を理解することを目的とする。整形外科学総論と各論は、一連の流れとして講義を行い、リハビリテーション科・整形外科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。				
キーワード: 運動器、診断学、保存治療、手術療法、外傷学				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/15	整形外科の歴史	Orthopedie、整形外科、ロコモ	
第2回	4/22	整形外科学的診察	問診、視診	
第3回	5/13	画像診断	単純X線、CT, MRI, 造影検査、PET	
第4回	5/20	検査法(補助診断法)	触診、生体検査、身体計測	
第5回	5/27	整形外科学的治療法1	保存治療、薬物療法、装具療法	
第6回	6/3	整形外科学的治療法2	手術療法1	
第7回	6/10	整形外科学的治療法3	手術療法2、麻酔	
第8回	6/17	外傷1	軟部組織損傷	
第9回	6/24	外傷2	熱傷、骨折、脱臼、後遺症	
第10回	7/1	慢性関節疾患	変形性関節症、痛風、血友病	
第11回	7/8	リウマチ・感染症	関節リウマチ、強直性脊椎炎、骨髄炎	
第12回	7/15	小児整形外科	発育性股関節形成不全、斜頸、先天性内反足、二分脊椎	
第13回	7/22	腫瘍、骨系統疾患	良性骨腫瘍、悪性骨腫瘍、骨系統疾患	
第14回	7/24	神経・筋疾患	末梢神経障害、脳性麻痺、筋ジストロフィー	
第15回	7/29	代謝・内分泌疾患	骨粗鬆症、代謝・内分泌疾患	
履修条件		人体の構造、人体の機能、病理学、運動学と関連づけて学習すること。		
予習・復習		予習より復習を重視する。復習にはレジュメの見直しを推奨する。		
テキスト		「整形外科学テキスト 改訂第5版」高橋 邦泰 他編 南江堂刊		
参考書・参考資料等		「標準整形外科学 第15版」井樋 栄二 他監 医学書院刊 など		
学生に対する評価		定期試験(90%)、日ごろの学習態度(10%)により評価する。		